

インゲン新品種「キセラネオ（試作系統名：BN-137）」の特性と栽培のポイント

1. はじめに

鮮やかな色が特徴のインゲンは様々な料理の色どり・引き立て役に多く使われる野菜であり、免疫力を高めるβカロテン¹⁾や疲労回復に効果のあるアスパラギン酸²⁾などを多く含みます³⁾。その莢は様々な形があり、日本国内でも好まれる形は地域性があります。関東では丸細莢で莢の凹凸が目立つ“どじょう莢”タイプ、関西では莢の凹凸が少なくスムーズな莢質の“丸莢”タイプが一般的です。この他に莢幅のある“平莢”タイプもあります。当社のインゲンはつるあり・つるなしの“丸莢”タイプであり、曲がり少なくスムーズな莢質が特徴です。

長期どりに適したつるなし品種「キセラ」をご利用いただいておりますが、この度後継品種として耐暑性を改良したつるなし丸莢品種「キセラネオ」を発売することとなりました。今回、その特性とポイントについてご紹介します。

2. 「キセラネオ」の特性

1) 早晩性

播種後 62～64 日前後で収穫でき、作型によりますが「キセラ」と同等～2 日前後収穫の遅い中生品種です。

2) 暑い時期でも秀品率が高い

インゲンはやや冷涼な気候を好み、生育適温は 20℃～25℃です。これより高温になると落花や曲がり莢が増加し

ます。「キセラネオ」は気温が高くなっていく時期でも莢の曲がりが少なく、「キセラ」と比較して秀品率が高いことが特徴です。高温環境下の長期獲得栽培でも安定した収量が期待できます（表 1）。

3) 高品質な莢質はそのままに改良

「キセラネオ」は「キセラ」同様の莢の長さ・太さで、色の濃さは同程度かやや鮮緑色です（写真 1）。今まで「キセラ」をご利用いただいていた産地でも、出荷基準の見直しや出荷箱の規格変更などの手間なくご利用いただけます。

4) ジベレリン応答性に優れる

植物ホルモンであるジベレリンに対する反応が良く、「キセラ」同様にジベレリン処理栽培に適します（写真 2）。ジベレリン処理栽培とは、つるなしインゲンにジベレリンを処理し、節間伸長による作業効率化と長期収穫を図る技術です。西日本の一部の産地で導入されています。

土壌水分、肥料成分の保持に有効です。pH は 6.0～6.5 の弱酸性土壌を好みます。

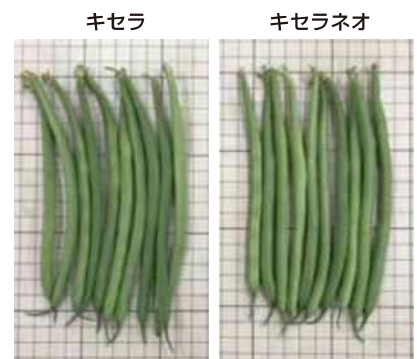
2) 播種

インゲンは過湿を嫌いますので播種前に土壌をある程度湿らせておき、播種後の過度な灌水は控えます。1 穴に 3 粒播種し、1 株に間引きます。

3) 誘引

成長に合わせて、ひも、またはフラワーネットで誘引を行います。

ひもで誘引する場合、1 段目は地際から 15～20cm 程度、2 段目は 30～40cm 程度の位置で、両側から挟むように行います（写真 3）。



▲写真 1 キセラとキセラネオの莢比較



▲写真 2 ジベレリン処理を行った「キセラネオ」

3. 栽培のポイント

1) 肥培管理

インゲンはマメ科の中でも根粒菌の着生が緩慢なため、肥料を必要とする作物です。堆肥は反当り 2t、基肥は反当り窒素 10～15kg、リン酸 15～20kg、カリ 10～15kg を目安とします。また、排水良好な土壌が適するため、15cm 程度の高畝にします。マルチは地温と

▼表 1 品種比較試験 3 年成績（2021, 2023-2024 年平均値）

当社千葉研究農場（千葉県千葉市）

	播種日	開花日	収穫始	収穫終	1 株当り莢重 (g)		反収 (推定) (kg)	秀品率 (%)
					規格内	規格外		
キセラネオ	4/1～3	5/18～20	6/3～5	6/23～26	306.1	113.1	1,889.4	73.8
キセラ	4/1～3	5/19～20	6/3～5	6/23～26	247.7	127.4	1,529.0	67.5

雪印種苗株式会社
千葉研究農場 園芸作物・花卉研究Ⅱグループ
中屋 楓



▲写真3 つるなしインゲン誘引の例



▲写真4 摘葉の例

4) 開花と収穫

開花から約2週間で収穫が始まります。土壌の乾燥は収量低下の要因になりますので、開花期以降は少量多回数の灌水を行います。お住まいの地域の出荷規格にもよりますが、「キセラネオ」は莢の長さが15cm前後になりましたら収穫適期です。取り遅れは品質低下や樹勢の衰えによる収量低下につながりますので、毎日、もしくは1日おきに収穫を行います。「キセラネオ」は収穫が続いても「キセラ」と比較して草勢が衰えにくい品種であり、適期収穫と追肥・摘葉を行っていただくことで収穫後半でも樹勢を維持し、収穫していただくことができます。

5) 追肥

長期どり栽培の場合、液肥や速効性の肥料などを用いて追肥を行います。液肥の場合、開花直前に1回、その後は草勢をみながら、収穫開始から約2週間ごとに散布します。追肥量は1回

あたり反当り窒素成分で1kg程度を目安とします。

6) 摘葉

収穫が始まりましたら、同時に黄化した葉や古い葉の摘葉（葉かき）を行います。古い葉は、色が濃緑になり、厚さが増し表面がぼこぼことしています（写真4）。このような葉を除去することで樹を疲れさせることなく、長期にわたり収穫することができます。摘葉は一度に大量に行うと株の負担になりますので、数回に分けて実施してください。

7) 作型

春まき、秋まきどちらでも栽培可能ですが、特に気温の上昇する春まき作型で特性を発揮します。詳しい作型表は以下をご覧ください（図1）。

8) 栽培上の注意点

①曇天などによる徒長

「キセラネオ」はつるなし品種ですが、曇天などの環境条件により上位節

が徒長する場合があります。その後生育が進むとおさまりますので、徒長した部分はそのまま栽培していただけます。通路にはみ出るなど作業性が悪い場合は、徒長部分を切り落としてください。

②莢のスジ症状

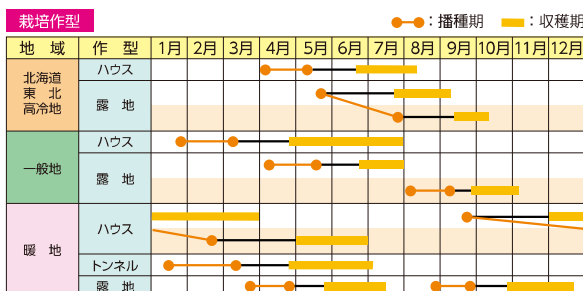
写真5のような莢のスジ症状が発生することがあります。日照不足や急激な吸水などで生育のバランスが崩れると発生する傾向があるため、樹勢を保つようこまめな栽培管理を行い、乾燥や過灌水を避けてください。

4. おわりに

今回ご紹介しました「キセラネオ」は、インゲンが苦手とする気温が上がる時期まで秀品率が高く、長くご利用いただける品種です。近年気温が高い年が続いていますが、「キセラネオ」をお使いいただくことで初夏どりでも曲がり莢の割合が少なく、秀品率の高いインゲン栽培が可能になります。ぜひ一度「キセラネオ」をお試しいただければ幸いです。

5. 参考文献

1. 玉井浩 (1995) β -カロテンによる免疫増強効果、ビタミン 69 (3), 230-231
2. 川村ら (1965) N-アセチル-L-アスパラギン酸の疲労回復効果に関する研究、体力科学 14 (1), 1-8
3. 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜情報 - 今月の野菜 - さやいんげん - 2011年6月 https://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/yasai/1106_yasai1.html (参照 2024年9月18日)



▲図1 キセラネオの栽培作型



▲写真5 スジ症状